



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」

(聖書 第1テサロニケ書5章16～18節)

牧師 河合裕志

これは新横浜教会の2020年度聖句として掲げられたもの。この1年この聖句の下に教会として、また個人の生活において歩いて行こうということ。それは素晴らしい聖句に違いないけれど実際問題、そんな具合に歩いて行けるものか。これはパウロ先生、無理を要求しているものではないか。

①「いつも喜んでいなさい」。事がうまく運んでいる時には喜べる。しかしうまく行かない時にはとてもじゃないけど喜べない。悲しむ、失望落胆する。

パウロはどうだった？ 彼がローマ帝国マケドニア州のフィリピの町で伝道に当たった時、反対者により役人に訴えられる。役人はろくに調べもしないで鞭で打ち足枷をはめて牢にぶちこむ。大変な目があった。ところが「真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた」(使徒言行録16章25節)。

パウロは痛い目にあい、これからどうなるのか心配であったはずだが賛美歌をうたっていたと言う。そこにはなお喜びがあったのではないか。そしてこの喜びは「キリスト・イエスにあって」可能であったのでは。この牢の中にもキリスト

が共にいてくれる、との思い。だから苦しみに耐えられた。

②「絶えず祈りなさい」。これは先ずイエスがそう教えていた。「イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために」、「やもめと裁判官のとえ」を語った(ルカ18章)。あるやもめが裁判官に訴えを起すが彼は全然聞く耳を持たない。しかし彼女はあきらめず訴え続けるので遂に彼は重い腰をあげ訴えを取り上げたという話。イエスはとに角熱心に神に祈り続けよ、と教えた。イエスは「求めよ、さらば与えられん」とも。絶えず祈る、自分も努力する、あとは神にまかせる、ということではないか。

③「どんなことにも感謝しなさい」。これは①と共に難かしい。つらい目にあった時にはとても感謝できるものではない。これも「キリスト・イエスにあって」感謝の可能性が開けて来るといふもの。一体にキリスト者は苦難を神からの試練、神は愛する者を鍛錬するのだと受け止める(ヘブライ書12章)。④神への信仰を試し強めようとして ⑤自らの行動を反省させようとして。苦難・試練にあう時キリストが共にいて励ましてくれることを覚えてなお前向きに耐えて行こう。

集案案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時